



Japan Section

ANNUAL NEWSLETTER No. 2024-1

2024年度（2023.10.1 - 2024.9.30）ニュースレター第1号

March 1st, 2024

Contents

1. 寄稿／Contribution

春名 幸一：JR 西日本による関西におけるターミナルを起点とした新たな価値創出
Kouichi Haruna: "JR West's 'Urban Development Starting at Stations' in the Kansai Metropolitan Area"

2. 報告：2024年度第1回講演会開催／Report: Seminar No. 2024-1

3. 報告：2023年度総会開催／Report: Annual General Meeting for FY2023

- (1) 総会概要／Overview of the Annual General Meeting
- (2) 2023年度年間活動報告／Annual Activities for FY2023
- (3) 2024年度年間活動計画／Annual Schedule for FY2024

4. 2024年度役員紹介／Officers for FY2024

5. 編集後記／Editor's Notes

- (1) お悔みとお見舞い／Condolences and Sympathies
- (2) 2024年度日本支部会費について／The Annual Due of Japan Section

1. 寄稿/Contribution

春名 幸一：JR 西日本による関西におけるターミナルを起点とした新たな価値創出

Kouichi Haruna: "JR West's 'Urban Development Starting at Stations' in the Kansai Metropolitan Area"



春名 幸一
西日本旅客鉄道株式会社 専務執行役員
地域まちづくり本部 副本部長
Kouichi Haruna
Senior Managing Executive Officer, West Japan Railway Company
Deputy General Manager, Regional City Planning Division

① JR西日本グループの長期ビジョン

JR西日本グループは、新型コロナウイルスの感染拡大による社会環境の激変により経営状況が著しく悪化した。この環境激変を契機として、将来にわたって価値を創造する企業グループに進化するため、目指す姿として「私たちの志」を2023年春に制定した。

私たちの志：「人、まち、社会のつながりを進化させ、心を動かす、未来を動かす」

さらに、将来にわたって持続的に価値創造していく企業グループを目指し、「長期ビジョン2023」を策定し、「人々がいきかういきいきとしたまち」など4つのビジョンを掲げ、地域の魅力を高め、定住、交流、関係人口が増加する未来を実現することを掲げた。

② 当社の目指す関西都市圏ブランド

当社エリアの中核である関西都市圏は、JRや各私鉄の集積する大阪、京都、三ノ宮、天王寺駅など大規模ターミナルが概ね1時間圏内に位置し、JRだけでも1日400万人のご利用のあるメガリージョンである。コロナ感染も落ち着き、インバウンド需要が回復する中、2025年には夢洲エリアで大阪・関西万博が開催される。この機も捉え、当社は関西都市圏における長期ビジョンの実現に向け、鉄道ネットワークを基盤とした「鉄道7社共同の関西Mass」、「いきいきとした拠点づくり」、「生活密着型の沿線づくり」などを通して、「シームレスな公共交通を構築し、ウォーカブルで魅力あふれるまちづくり」を進め、世界に開かれた関西都市圏ブランド（図1参照）の確立を目指すこととした。



図1 関西都市圏ブランドの確立

③ 関西の課題と目指す方向

一方、関西では人口、産業、企業立地等に関して相対的地位が低下し続けており、いわゆる東京一極集中の傾向が止まらないのが実情である。産業構造変化（成長産業の育成）への対応の立ち遅れ、雇用環境による人材の流出、許認可等政治・行政の仕組みなど多くの要因が指摘されており、「産業構造変化→雇用環境悪化→人材流出→成長力弱体」の負のスパイラルからの脱却が長年の課題となっている。

世界を俯瞰すると、コロナ禍を脱し人々のニーズにも変化が生まれつつある今、世界的に都市の魅力を増している地域では、イノベーションの創出を起爆剤として成長を遂げ、多様な人材集積との好循環を起こしている。ロンドン、サンフランシスコ、東京など「グローバルゲートウェイとしての地位を確立した都市圏」、シアトルや北欧など「『職、住、遊』が整うコストパフォーマンスの高い都市圏」など注目されているが、後者のバランスのよいコンパクトな都市圏は関西にとって大いに参考となる。

幸い関西は自然、文化、歴史が集積しており、大阪、京都、神戸の各都市圏は「住みよい、訪れたい都市」として世界的な評価も得ている。また、最先端の研究、大学機関の集積も進んできた。このポテンシャルを最大限活かし、まずは多種多様な人材を関西に引き付け、イノベーションの創出、成長産業の創出に繋げる必要がある。さらに持続的なスパイラルとするためには、京阪神・関西をひとつと捉え「住みよい、働きやすい関西」、世界から注目される「イノベティブな関西」としてのイメージ定着が重要となる。

コロナ禍でリモート会議などデジタルツールが大いに進展したものの、イノベーション創出など創造的活動にあたってはリアルコミュニケーションの重要性が再認識された。リアルで人々を集め、繋ぐことができる当社は、イノベーションの基盤構築に果たす役割は大きい。関西における多種多様な人々の集積、交流促進に向けて、シームレスな公共交通ネットワークを構築すると共に、様々なパートナーや自治体と連携してターミナルを起点とした仕掛けづくりを進めていきたいと考えている。（図2参照）

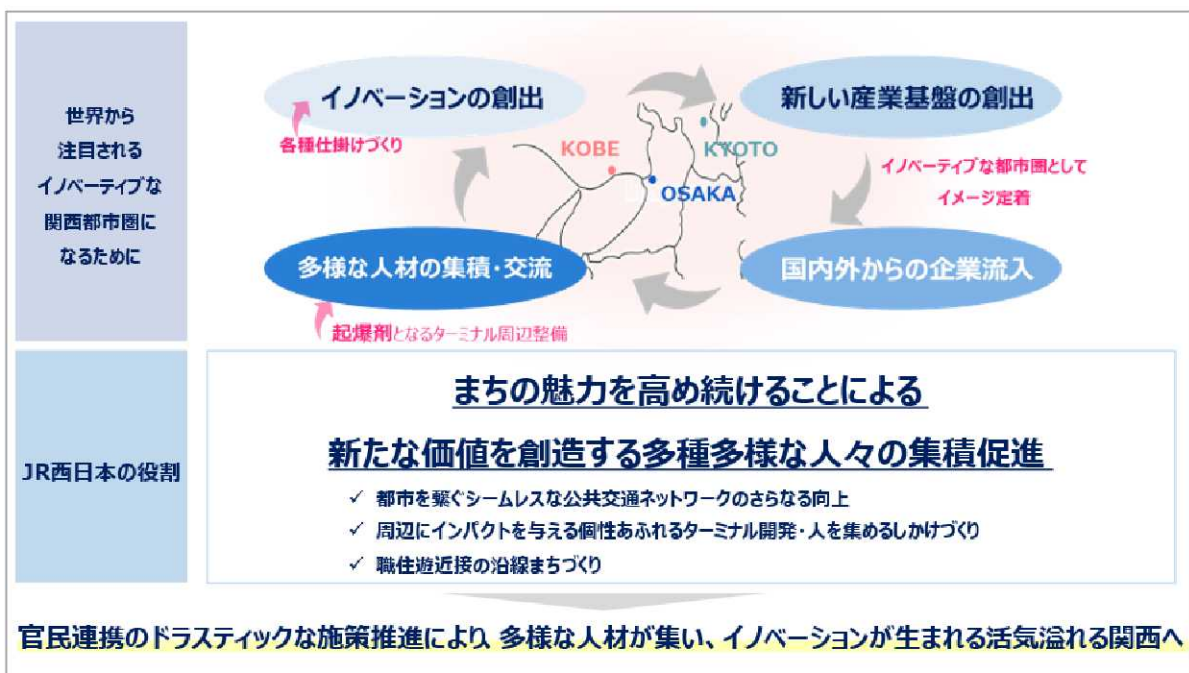


図2 イノベティブな関西都市圏になるために当社が果たすべき役割

④ ターミナルを起点とした新たな価値創出

関西最大のターミナルである大阪駅は1日240万人（コロナ前）のご利用がある日本有数の鉄道結節拠点である。当社は周辺開発の具体化に先立って2003年12月に起爆剤となる大阪駅改良・新北ビル開発計画を公表し、2011年5月に大阪ステーションシティが開業し、その後、他民鉄の百貨店建替えや梅田北ヤード跡地開発が順次完成した。当社としては周辺エリアへの更なる誘発を企図し、東海道線地下化にあわせたうめきたホームや西口改札を新設し、今後も交流系オフィスを中心とした複合ビルの開業を予定している。本年夏には都市公園を核とするうめきた2期（グラングリーン大阪）のまちびらきが予定され、交流機能を活かした関西のハブ拠点として大阪駅周辺エリアの更なる発展が期待されている。（図3参照）



図3 大阪駅改良を契機に進んだ駅周辺の開発

また、5社6路線が集積する神戸三宮においては、ウォークブルな「えき・まち」空間の形成を目指し、2029年度完成を目標にUR都市機構と共同で三ノ宮駅ビルの建替え事業を推進している。京都駅においては、京都駅ビルに隣接した西側でJPと共同ビル事業を推進しているほか、交通結節機能強化を目的として新橋上駅舎整備を発表したところである。当社としては引き続き、関西主要ターミナルでの結節・交流機能の強化に努め、ターミナル周辺の価値向上を牽引したい。

⑤ 今後の課題と展望

大阪駅、京都駅など主要ターミナルは斬新なデザインや豊かな広場空間など優れた建築物として観光客や市民からも高い評価を得ている。今後は施設のコンテンツや公共空間を活かし、地域のさらなる魅力発信と多様な人々の交流演出が課題となっている。そのためには当社施設だけでなく周辺事業者と連携したエリアマネジメントにより、デジタルも活用しながら、エリアを巻き込んだ魅力向上と地域毎のブランド化が重要となる。TODはSDGsの観点からも世界的に注目されており、当社としては日本版TODの発展形を目指し、人々の集積する主要ターミナルを起点にイノベーション創出を誘発し、公共交通を基盤とした「住みよい、働きやすい」関西のブランド化と持続的成長に寄与したい。

2. 報告：2024年度第1回講演会開催／Report: Seminar No. 2024-1

On December 6th, 2023, ASCE Japan Section held a seminar. The speakers are Ms. Mariko Takahashi, a science journalist, and Mr. Genta Tabe of Obayashi Corporation. The number of participants was 34. The credit of the continuing professional development (CPD) of Japan Society of Civil Engineers was 2.0 hours (JSCE23-1473) for the participation.

2023年3月2日にWEB講演会を開催しました。講演者は、科学ジャーナリストの高橋真理子氏と、株式会社大林組土木統括官の田部元太氏でした。参加者は34名でした。本講演会は、土木学会CPD認定プログラム（JSCE23-1473、単位数2.0単位）でした。

講演1：「女性研究者と日本社会」

Lecture 1: “Female scientists and Japanese society”

【講演者／Speaker】

高橋 真理子 氏、Ms. Mariko Takahashi
科学ジャーナリスト、Science Journalist

【概要／Abstract】（講演会開催案内より引用）

日本は研究者における女性比率が世界の中で際立って低い国である。アエラドットのインタビューシリーズ（※）で多様な年代、専門分野の女性研究者から話を聴く中で、日本社会の変遷が鮮やかに見えてきた。今後の課題とともに共有したい。

Japan is a country where the percentage of female researchers is notably low in the world. In the course of interviewing female researchers of various ages and specialties in the Aera Dot interview series (※), the transition of Japanese society became vividly visible. I would like to share them with you along with future issues.

※ https://dot.asahi.com/list/column/takahashi_m



Ms. Mariko

講演2：「バングラデシュ国カチプール・メグナ・グムティ新橋建設及び旧橋改修工事」

Lecture 2: “Bangladesh, Kanchpur-Meghuna-Gumti 2nd Bridges Construction and Rehabilitation Project”

【講演者／Speaker】

田部 元太 氏、Mr. Genta Tabe
(株)大林組 土木統括監、Civil Safety Supervisor, Obayashi Corp.

【概要／Abstract】（講演会開催案内より引用）

経済成長が著しい同国で、物流の大動脈である国道1号線上にあり渋滞のボトルネックとなっていた、3つの大型橋梁の新設と既設橋の改修工事が、日本の技術を採用して行われ2020年に完成した。第6回JAPANコンストラクション国際賞（2023年）を受賞した当工事での課題と解決策について報告する。

The three bridges project, which located on the most important logistic arterial National Road No. 1 in Bangladesh, was carried out adopting Japanese engineering technologies to



Mr. Genta Tabe

resolve traffic congestion bottleneck and completed in 2020. The Project received the 6th JAPAN Construction International Award in 2023.



写真2-1 2024年度ASCE日本支部第1回講演会（Zoom画面、事務局と講演者）

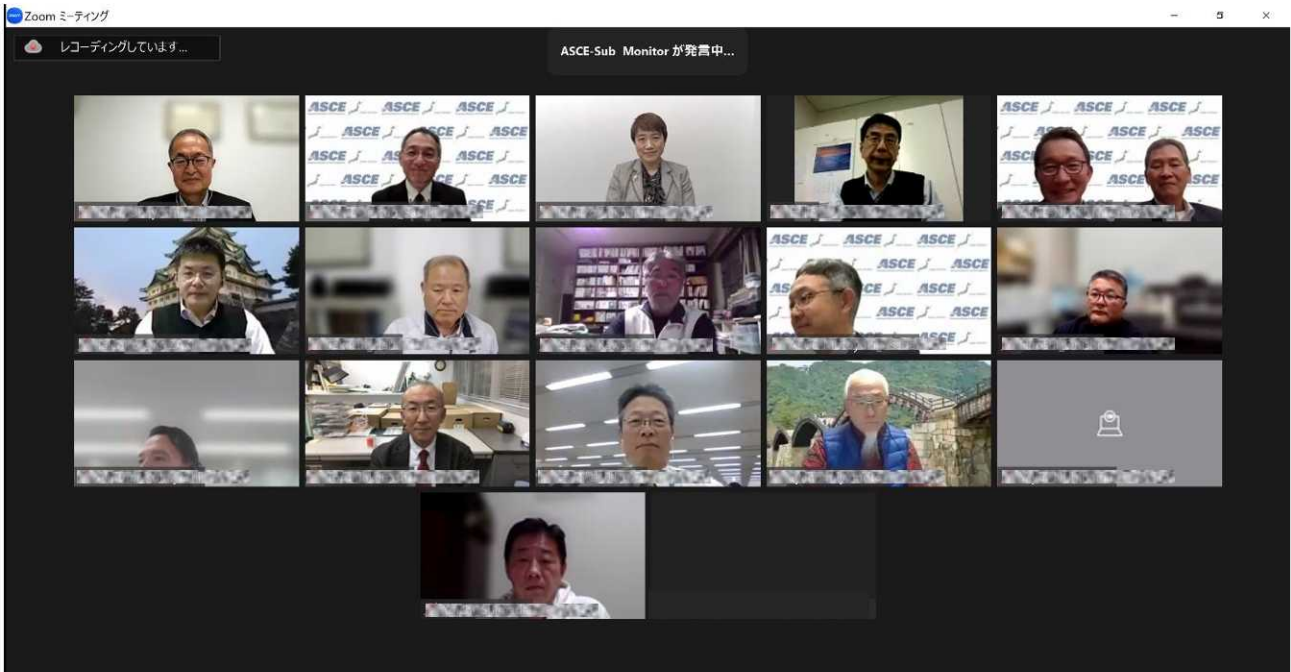


写真2-2 2024年度ASCE日本支部第1回講演会（Zoom画面、参加者有志集合写真）

3. 報告：2023年度総会開催／Report: Annual General Meeting for FY2023

On December 6th, 2023, ASCE Japan Section held the Annual General Meeting for FY2023.
2023年12月6日に2023年度ASCE日本支部総会を開催いたしました。

(1) 総会概要／Overview of the Annual General Meeting

■総会名称および年度期間

総会名称：2023年度ASCE日本支部総会
(2023年度期間：2022年10月1日～2023年9月30日)

■開催日時

2023年12月6日(水) 13:15～13:45

■開催場所

株式会社大林組 本社14階A-1会議室(日本支部役員)
(東京都港区港南2丁目15番2号 品川インターシティB棟)
及び メール審議(日本支部会員)

■総会出席者

土橋 浩(副支部長)、中澤 直樹(副支部長)、浅田 素之(副支部長・会計監査)、
佐々木 哲男(セクレタリー)

■総会議事

総 会 議 事	担 当	時 間
1. 開会 Opening address	土橋 President	13:15
2. 2023年度活動報告 The Annual Activities Report for the fiscal year of 2023	佐々木 Secretary	13:20
3. 2023年度会計報告・監査報告 The Statement of Accounts for the fiscal year of 2023	浅田 Treasurer	13:30
4. 2024年度活動計画、活動体制 The Annual Activities Plan for the fiscal year of 2024	佐々木 Secretary	13:40
5. 閉会 Closing Address	土橋 President	13:50

注) 担当欄の役職は、2023年度のもの。

■決定事項

下記全ての議案が承認されました。メール審議においても反対意見はありませんでした。

議案1 2023年度の活動報告、会計報告

- ・2022年7月に2年任期(2023年度～2024年度)の役員選挙を実施した。
支部長：土橋 浩、副支部長：中澤直樹、浅田素之

会計：浅田素之（兼務）、セクレタリー：佐々木哲男

- 次回の選挙は 2024 年 5 月～7 月に 2025 年度（2024 年 10 月～）の役員に関する選挙を行う予定。

議案 2 日本支部会費の徴収について

- 2016 年から支部会費（5,000 円／年）の徴収を行っていない。当面これを継続する。

議案 3 2024 年度の活動計画、活動体制について

- 2024 年度の活動計画
- 役員体制は、議案 1 で報告された役員選挙で選出された体制とする。

(2) 2023年度年間活動報告 / Annual Activities for FY2023

ASCE Japan Section Annual Activities for the Fiscal Year of 2023 (October 2022 – September 2023)

Implemented until November, 2023

活動項目 Activities	頻度	2022			2023												備考 Remarks	
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
1.ASCE 本部への年次報告書 Annual Report to ASCE HQ	1回/年		●													●		ASCE 本部に web 提出
2.他団体との交流 JSCE, JPEC	随時																	なし
3.ニュースレター Newsletter (英語/日本語)	2回/年							●										No. 2022-1, March 30th, 2022
4.講演会 Lecture	2回程度/年							●									○	2023年3月2日開催 勝浦秀文氏、二羽淳一郎氏
5.現場見学会 Field Trip	1回程度/年																	開催せず
6.総会 Annual General Meeting	1回/年			●													○	2022年12月21日開催
7.ASCE Annual Convention, Region 10 Meeting	1回/年																	なし
8.ASCE 本部との交流 Exchange with ASCE HQ	随時				●													1月25日 ASCE Collingwood Prize 応募支 援(鈴木敦詞氏)
9.運営委員会(役員会) Steering Committee Meeting	1回/3ヶ月							●					●					3月2日、8月4日(各 対面)
10.学生活動支援 Student Activities	随時																	なし
11.継続教育活動 Continuing Education	随時							●									○	講演会 CPD
12.役員選出 Election Procedure	1回/2年												●					2022年7月 役員選挙
13.会費徴収 Dues Payment	1回/年																	当面徴収せず
14.会計報告 Financial Report	1回/年			●													○	総会で報告

凡例：●実施

(3) 2024年度年間活動計画／Annual Schedule for FY2024

ASCE Japan Section Annual Schedule for the Fiscal Year of 2024 (October 2023 – September 2024)

Planned November 2023

活動項目 Activities	頻度	2023			2024												備考 Remarks	
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
1.ASCE 本部への年次報告書 Annual Report to ASCE HQ	1回/年		●													○		ASCE 本部に Web 提出
2.他団体との交流 JSCE, JPEC	随時																	適宜実施
3.ニューズレター Newsletter (英語/日本語)	1~2回/年					○											○	講演会の2ヶ月後に発行
4.講演会 Lecture	2回程度/年			○												○		
5.現場見学会 Field Trip	1回程度/年																	適時協議
6.総会 Annual General Meeting	1回/年			○												○		2023年12月6日開催 2024年10~12月開催
7.ASCE Annual Convention, Region 10 Meeting	1回/年															○		運営会議で協議
8.ASCE 本部との交流 Exchange with ASCE HQ	随時															○		Region 10 PGF (Online)
9.運営委員会(役員会) Steering Committee Meeting	1回/3ヶ月					○										○		役員参加
10.学生活動支援 Student Activities	随時															○		学生を講演会へ招待
11.継続教育活動 Continuing Education	随時			○												○		講演会、現地見学会を土木 学会 CPD 認定プログラム 登録
12.役員選出 Election Procedure	1回/2年															○		新役員選挙(現役員は 2024年9月まで任期)
13.会費徴収 Dues Payment	1回/年																	会費の徴収は当面休止とする
14.会計報告 Financial Report	1回/年			○												○		総会で報告

凡例：●実施、○予定

4. 2024年度役員紹介 / Officers for FY2024

ASCE Japan Section Officers for the Fiscal Year of 2024 (October 2023 – September 2024)

<p>(1) PRESIDENT: Hiroshi Dobashi, Dr. Eng., M.ASCE Hiroshi Dobashi is the Executive Officer of Metropolitan Expressway Company Limited. He has been an Associate Member of ASCE since 2000 and became a Member in 2022. He is a Fellow of JSCE and a registered engineer. He obtained Bachelor's Degree in Civil Engineering from Yamanashi University in 1983 and Master's Degree in Civil Engineering from the University of Tokyo in 1985. He also obtained Master of Science from the University of California, Davis in 1992. He earned a doctorate at the University of Tokyo in 2008.</p>	
<p>(2) VICE PRESIDENT: Naoki Nakazawa, Dr. Eng., A.M.ASCE Naoki Nakazawa is the President of Systems Engineering Associates Inc. and is also a staff at Advanced Construction Technology Center. He joined ASCE as a Student Member in 1986 and is now an Associate Member. He is a registered engineer. He holds a B.S. in Civil Engineering from Hokkaido University, an MS in Arctic Engineering from the University of Alaska Fairbanks and a Dr. Eng. from Hokkaido University in 1991.</p>	
<p>(3) VICE PRESIDENT / TREASURER: Motoyuki Asada, Dr. Eng., M.ASCE Motoyuki Asada is currently one of the Vice Presidents and the Treasurer in the Japan Section. He is now the senior researcher at Institute of Technology, Shimizu Corporation, and a professional engineer of soil mechanics and foundation, Japan. He graduated from the University of Tokyo with a Master's Degree in Environmental Engineering in 1994. He also earned a doctorate at the University of Tokyo in 2003. He worked at Asian Institute of Technology (Thailand) in 2004 as a visiting lecturer.</p>	
<p>(4) SECRETARY: Tetsuo Sasaki, M. Eng. & M. Sci., A.M.ASCE Tetsuo Sasaki is the general manager of Business Administration Department in Civil Engineering Construction Division of Obayashi Corporation and is an Associate Member of ASCE. He holds a Bachelor's Degree in Transportation Engineering from Kyoto University in 1988, a Master of Engineering in Civil Engineering from University of Tokyo in 1990, and a Master of Science in Environmental Engineering from Carnegie Mellon University in 1999.</p>	

5. 編集後記／Editor's Notes

(1) お悔みとお見舞い／Condolences and Sympathies

2024年1月1日に発生した能登半島地震によりお亡くなりになられた方々および被災された方々に対し、謹んでお悔やみおよびお見舞いを申し上げます。また、1月2日に発生した羽田空港での事故において、お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げるとともに、お怪我をされた方々にお見舞い申し上げます。

(2) 2024年度日本支部会費について／The Annual Due of Japan Section

現在、ASCE 日本支部の収支残高（会員会費および ASCE 本部からの活動補助金の収入分と活動経費等の支出分の累積残高）に余裕があることから、2024 年度（2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日）を含め、当面、日本支部会費（5,000 円／年）の徴収は行いません。

米国土木学会日本支部 2024年度ニュースレター第1号, 2024年3月1日,
ASCE Japan Section Annual Newsletter No. 2024-1, March 1st, 2024.